

Global Active Learning 2025

***Chuo University
Global FLP***

はじめに

Brandeis大学の藤原先生とは、2010年ごろから協働を行っている。毎年様々な試みを重ね、いまは夏のBoston訪問に続いて、秋学期に毎週合同授業を行う形となっている。学生がペア/グループで授業時間外に合同プレゼンの準備をしているように、教員同士でも毎週2時間以上のミーティングを重ね、アイデアを出し合って授業の形を作っていく。ミーティングの時間が週末の朝や夜になることも少なくない。

そんな努力が実ってきた感覚がある。中央大学の学生たちは、私が彼らに求めていることが英語で話すことだけではなく、異文化交流/異文化理解であることを真に理解して行動し、今のところそれが上手くできているように見える。

今年度の特別な試みも功を奏した。その1つは、ヘッセ先生のBostonにおける引率同行である。事前学習におけるヘッセ先生の共同担当は昨年度にもあったのだが、2025年度には特別に、Harvard大学とBrandeis大学での活動に参加してもらうことができた。そのヘッセ先生は、今年度をもって中央大学を退職される。学生にこれほど良い影響を与えてくださる素晴らしい先生に長年勤めていただけた中央大学は幸せであったとしみじみ感じた。

本科目の今年のもう1つの新しい試みは、Boston大学の産学連携部門訪問だ。学問を身につけることは実利に資するばかりではない。日頃、バイオの実用的な世界との連携に従事している担当者が、いかに広範で知的でグローバルな感覚を持っているかが学生たちにもよく伝わったのではないかと思う。マークが並外れた知力をポテンシャルとして持っていたことは間違いないが、それを引き出したのは学問と彼自身の努力のなせる業である。

学生たち自身が成し得た今年度の夏の活動で私の心に残ったことの1つは、Brandeis大学の日本語1年生との交流である。彼らは1日にしてすっかり打ち解けて様々なことを語り合い、一緒に撮影した写真を宝物のように持って帰った。学業上の力のみならず、こういった交流力においても、学生たちに備わった能力とポテンシャルに敬意の念を感じてやまない。彼らが自分たちの潜在能力を活かすために、本科目が少しでも役立てることができればと切に願っている。

2025年10月 武石 智香子

目次

1.スケジュール表

2.ボストン到着

3.ハーバード大学ニコラス先生との対談

4.ブランダイス大学にて合同授業(1.2年生と)

5.ブランダイス大学にて合同授業(3.4年生と)

6.ボストン観光(茶会事件・クインシーマーケット)

7.ボストン大学マーク先生との対談

8.ボストン観光

9.帰国

10.終わりに

1.スケジュール表

9月7日(日)	24時30分 Airbnb到着
9月8日(月)	10時～11時 ハーバード散策 11時10分～12時 ニコラス先生との対談(ハーバード大学) 13時～14時30分 ブランダイス生と昼食(ブランダイス大学) 14時30分～17時 キャンパス散策 17時30分～19時 ブランダイス大学生との合同授業
9月9日(火)	10時～10時50分 ブランダイス生との合同授業 11時25分～12時5分 ブランダイス大学生との合同授業 12時45分～13時35分 ブランダイス大学生との合同授業 14時30分～15時20分 ブランダイス大学生との合同授業 15時30分～18時 ブランダイス大学生との交流・自由行動
9月10日(水)	12時～14時 ブランダイス生と昼食・キャンパスツアー 14時30分～15時50分 ブランダイス大学生との合同授業 17時30分～18時50分 ブランダイス大学生との合同授業
9月11日(木)	10時～11時 ボストン茶会事件ミュージアム 11時30分～12時30分 昼食(ロブスターレストラン) 13時～14時 クインシーマーケット観光 14時～18時 自由行動
9月12日(金)	10時～11時 ボストン大学インダストリアルエンゲージメントマーク 先生との対談 11時～17時 ボストン観光 17時～18時 夕食(ロブスター&シーフードレストラン) 18時30分～21時 野球観戦(フェンウェイパーク)
9月13日(土)	自由行動
9月14日(日)	自由行動
9月15日(月)	10時 Airbnb出発 13時20分 機内搭乗

2.9月7日 ボストン到着

16時間のフライトの後、ボストンのAirbnbに到着。Airbnbはとても広く驚くほど清潔感のある部屋であった。また、室内に料理器具や洗濯機・乾燥機・洗剤が備えられており、長期滞在するのにとても最適であると感じた。また、施設内に備え付けられているジム・プール・ルーフトップも無料で使用できる。しかし、美容液や保湿液などのアメニティはなく、ボストンは非常に乾燥しているため、ボディケア化粧品の持参は必須といえる。





3.9月8日 活動内容・学んだこと

午前 ハーバード大学訪問

午後 ブランダイス大学訪問

午前

ハーバード大学の敷地内を見学したのち、ギリシャ人のニコラスと1時間程度対談する。

対談の内容としては、主に学生4人がそれぞれの専攻分野について述べ、それを深掘するという内容だった。

学生4人はそれぞれ哲学、商学、グローバル分野、法を専攻しておりそれについて議論した。特に議論が盛り上がったトピックが二つあり、一つは哲学におけるテーマで”What is Love”である。まず、教師はあなたにとって愛は何かと尋ね、学生は愛とは自己犠牲の一種だという風に答えた。具体的には、親が子を愛くるしいならば、深夜まで働くなど自分を犠牲にして子供の生活をサポートするなどである。納得はされたものの、アメリカ人にはその発想はなかなかないとのことで日本人との考え方の違いを実感した。アメリカ人の愛に対する考え方についてまで尋ねる時間がなかったため、それをできればよかったと心残りがある。

その後、日本人学生の就職活動についても議論した。就職先が決まっている学生が3名ほどおり、全員IT企業への就職が決まっていたため、それが現在の日本の就職活動におけるトレンドであることを説明した。そのうち1名はコンサルティングファームから内定をもらったことについて、自身が哲学を専攻しているため論理的思考を養ったことでその企業からの内定をもらう要素になったことを説明した。

さらに、AIについての議論が盛り上がった。AI・ロボット法の勉強をしていることを説明すると、2027年問題についてどう思うか尋ねられた。それに対しては非常に答えるのが難しいが、最終的な決定権をAIではなく人間が持つ姿勢が必要であり、AI利用に携わるすべての段階における人がAIの知識を持つべきだと回答した。AIの現状について、アメリカでAIがブラックメールを送ったという事例を紹介してもらった。また、ハーバード大学では、学内のAI使用について①使用することを制限なしに認める②制限付きで使用を認める③完全に使用を禁止するという3つの案で意見が分かれていると聞いた。多くの教師は③の完全に禁止を指示する人が多いと話しており、このような話し合いの場には学生代表も参加するというアメリカの大学の仕組みを知った。



午後

ブランダイス大学で現地の学生らと学食で昼食をとった。日本語クラスを受講している学生のほかにも日本人と交流したいと多くの人が昼食に参加してくれた。少し学内を散策し、本題であるSDGsについての授業を受けた。まずはそれぞれ自己紹介し、関心のあるトピックを各々話すことで今後のグループ編成を試みた。環境問題や、ジェンダーギャップなど学生みんなが様々なトピックに関心があることが分かった。この授業では、中央大学側の人は英語で意見交換し、ブランダイス大学側の人は日本語で話した。



4.9/9 活動内容、学んだこと、感想

ブランダイス大学へ自分達だけで通学。乗り過ごしたり、乗り間違えてしまったら次の便は1時間後だったので緊張したが上手く乗り換え＆乗車することができた。

大学最寄り駅でブランダイス大学の学生達が迎えに来てくれており一緒に登校した。次のクラスまで道案内してくれた。その際、今回授業で関わることはない別のクラスの子もわざわざ会いに来てくれていて嬉しかった。そこで私は韓国人の女の子とお話した。アメリカの大学生ははっきりと主張してガツガツいくイメージを持っていたのだが今回この女の子と話して全員が全員そうとは限らないこと、そしてアジア出身で文化も環境も違うからこそその悩みを打ち明けてもらい、色々な背景をもった様々な性格の子がいることに気づき多様性を実感した。よりリアルなアメリカを見れた気がした。

私達はこの日、計4つの日本語クラス(初級レベル)の授業に参加し、交流した。お互いに日本語と英語で自己紹介し、その後はフリートークを行った。1ターン10～15分を4回ほど行い、クラス全員とお話することができた。

みんな日本に興味があつて特に日本のアニメに詳しいところが印象的だった。日本人の私以上にアニメや日本文化を知っている子もいて、日本人として自国のことをもっと知っておかなければならないと感じた。もっと日本について情熱的に語れるようになっていこうと思った。また、日本語クラスの生徒はアジア出身の学生が多いところも印象的だった。

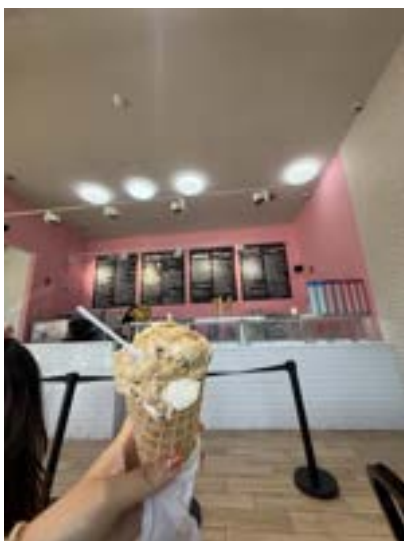




お昼ご飯は食堂やカフェなどもあったが物価が高く感じた為、コンビニにあった安くて簡単にできあがるmac&cheeseを食べた。美味しかったが、日本食が恋しくなった。



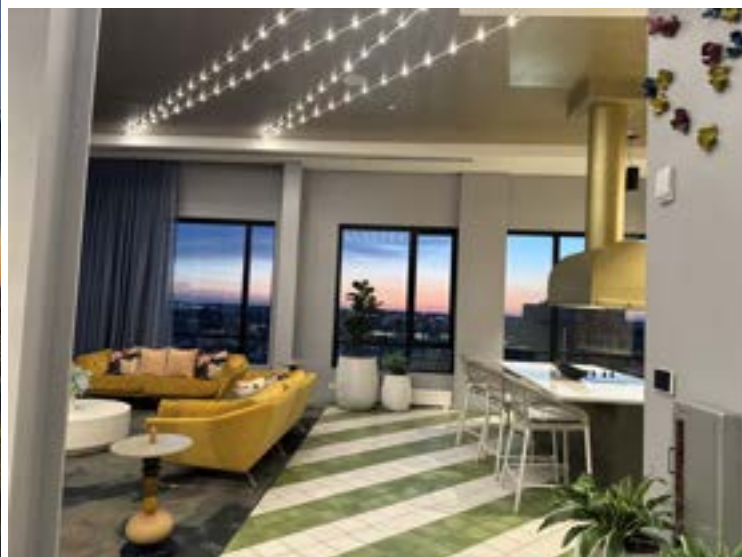
夕方のご厚意でブランダイス大学の卒業生のケンさんが大学近くにあるおすすめのアイスクリーム屋さんに連れて行ってくれた。味見をさせてくれるアイスクリーム屋さんだったので食べたことがないフレーバーを沢山試すことができて面白かった。サイズは大きく甘くておいしかった。



食べた後は大学内にある芝生に座っておしゃべりした。ケンさんとブランダイス大学の学生アーロンさんがギターを持ってきてくれて日本の曲で弾き語りしてくれたり、一緒にみんなで歌った。ケンさんもアーロンさんも日本の曲を沢山知っていて流暢に歌うことができていて驚いた。日本の文化や音楽への愛を感じ、日本人として嬉しかった。彼らの日本への情熱や勉強熱心なところに強い刺激を受けた。



その後電車でAirbnbへ帰宅した。Airbnbの屋上から綺麗な夕日が見えて「今日も良い一日だったな」と感じた。



5.9/10 ～Japanese Language 3年生の授業への参加と4年生との合同授業～

ボストンに来て4日目の9月10日は、まず、Japanese Language 3年生の授業に参加した。1年生の授業の時とは違い、日本語学科3年生のテキストなどを使用した通常の授業に混ぜていただく形であった。ディスカッションの時間には、中央大学の学生1人と、ブランダイス大学の学生4.5人でグループを作り、「日本特有の”敬語”を使う意義」などのテーマについて意見を述べた。1年生の授業の時は、ほとんど英語で会話していたのに対して、3年生のクラスでは4年生ほどではないものの、基本的には日本語で会話をすることができ、言語習得のスピード感にとっても驚いた。また、授業で出てきたトピックやワードが”敬語”、”就活”といった難しいものが多かったことにも驚いた。

3年生の授業に参加した後は、4年生との合同授業を行った。この日がブランダイス大学で4年生と合同授業をすることができる最終日であったため、各々が興味関心のあるSDGsトピックのトッpsリーをあげ、話し合いをし、すりあわせを行い、中央大学の学生とブランダイス大学の学生の人数が等しくなるように、近しい内容の人たちで3つのグループを作った。グループは、

Goal 3: Good Health and Well-Being すべての人に健康と福祉を

Goal 5: Gender Equality ジェンダー平等を実現しよう

Goal 14: Life Below Water 海の豊かさを守ろう

に分かれ、後期はオンラインでの授業を通して、プレゼンテーションを行う。

この日の午前中には、ブランダイス大学の4年生の皆さんがキャンパスツアーを行って下さり、お昼ご飯も一緒に食べ、楽しい時間を過ごした。学生寮に案内してもらった際に、男女混合で部屋割りが構成されている点に、日本との大きな違いがあることに気づき、私たちも、ブランダイスの学生も双方の国の違い驚き、しばらくの間、お互いの国の寮のシステムや男女の価値観などについて話が盛り上がった。

6.9月11日 観光について

ボストン茶会事件博物館/街中観光/ニューベリーストリート/フェンウェイパーク/ブランダイス大学
1年生との交流

午前中は全員でボストン茶会事件ミュージアムに行った。歴史の内容を英語で理解するのは非常に難しく、また案内人の方があえて当時の言葉遣いで説明していたことでより理解が困難であった。それでも、ボストンの歴史に触れることができ、とても有意義な時間になった。昼食はボストン名物のロブスターを食べた。同じく有名なクラムチャウダーも注文し、味覚からもボストンを感じた。その後クインシーマーケットや水族館前などを散歩し、午後はニューベリーストリートに行く人とフェンウェイパークのツアーに行く人に分かれ、各々観光した。夜はブランダイス大学の1年生の学生の案内でピザを食べに行った。彼は、近所にあるピザ屋に私たちを案内し、そのレストランが家族や大切な人と特別な日に来るレストランであることや、彼の家の近所にあることを教

えてくれた。ピザを食べる前には彼の通っていた高校を紹介してくれるなど実際のアメリカ人の生活を垣間見ることができた。また、チェキのカメラで全員分の写真を印刷してくれたことで形に残る思い出もできた。帰国後も彼とは連絡を取っている。









7.9/12活動内容、学んだこと、感想＋午後観光

朝10時からマーク先生とお話させてもらった。主に「アメリカ人と日本人の考え方の違い」についてディスカッションさせていただいた。先生との話の中で、アメリカ人と日本人の考え方の根本的な違いについて深く考えさせられた。

一言で言うと、「アメリカ人は白黒をはっきりさせたがるのに対し、日本人はグレーな状態を受け入れられる」という点が大きい。アメリカ人は妥協を嫌い、「白」と決めたら最後までそうでなければならない。たとえば「年収1000万円になる」と決めたら、「無理かも」と考える余地がなく、そうならなかった場合は「自分は失敗した」と思い込んでしまう。この「決めつけ」の強さが、時に精神的なプレッシャーや鬱の原因にもなる。一方、日本人は「無理そうだ」とわかれば自然に引くことができ、柔軟に方向転換できる。そこに大きな違いがある。

こうした違いの背景にあるのは何なのか？宗教なのか、教育なのか、地理的な要因なのか？という問いも出た。知識社会学の観点では、人間の考え方は物理的条件よりも文化によって形成されるという。島国の日本やオーストラリアのように、地理的条件が文化や宗教の成り立ちにどう影響してきたのかも興味深い。宗教の話では、キリスト教・ユダヤ教・イスラームは全て同じ神を崇拝しているが、考え方や価値観は異なるという例も出た。この「同じでも違う」構造は、文化の多様性を考える上で重要な視点だと感じた。

また、先生はアメリカにおけるLGBTQの“Q(クエスチョニング)”の人々が多いことにも触れた。アメリカ人は「自分が何者か」を言葉と論理で明確に定義しようとする傾向が強い。しかし、定義できない自分に苦しみ、鬱になる人もいるという。一方で日本人は、自分をはっきり定義していなくても、曖昧なまま生きていける。むしろその曖昧さを受け入れ、そこに意味や面白さを見出すことができる。「グレーなところが興味深い」と思えるのが日本的な感性なのかもしれない。

日本人は言葉がなくても、気遣いや空気意思疎通ができる。しかし、アメリカ人にはこの「言葉にしないコミュニケーション」は理解しづらい。先生(マーク)は、日本人のこの曖昧さを“気持ち悪い”“アンフォーダブル(受け入れがたい)”と感じると言っていた。アメリカ人にとっては、明確にしないと不安になるのだ。

日本人は「いろんな考え方があっていい」と自然に受け入れられる柔軟さがある。それに対してアメリカ人は矛盾を許せない。たとえば、トランプを普段批判している人が「この政策だけは良い」と思っても、それを口にできない。「自分は反トランプだから」と思い込んで矛盾を避けようとする。だが内心では共感する部分もあり、その矛盾に苦しんで自分を見失い、鬱になる人もいるという。

武石先生の言葉で印象的だったのは、日本人はアメリカ社会に適応し、アメリカ人のように振る舞うことはできるが、それだけではダメというもの。日本人としてのアイデンティティを簡単に失ってもよいのだろうか。日本人としての誇りを持ち、アメリカ社会に適応するにはするが「完全にアメリカ人になってしまうのは違う。」この部分に自分はハッとさせられた。

また、欧米人の多くは「日本人と中国人は似ている」と思っているが、私たち日本人からすれば全く違う。同様に、アメリカとヨーロッパでも考え方には違いがある。欧米人の中には、今でも日本を“武士の国”や“明治維新時代のまま”だと捉える人も多い。しかし、私たち日本人は戦後、平和な道を歩んでいく中で価値観を戦前と大きく変えてきた。その変化を欧米人に説明しても、なかなか理解されない現状があるという話も印象的だった。

マーク先生が、こうした文化的・哲学的な背景を理解するためにシェイクスピアやアリストテレスの本を勧めてくれた。是非読んでみようと思う。今まで考えたことも感じたこともなかった「価値観や文化、考え方の違いのお話」はとても自分にとって大きな発見でもありカルチャーショックでもあった。とても良い経験だったと感じる。大変貴重な時間だった。



対談後は市内観光をした。有名なフリーダムトレイルを歩き、ボストンの歴史を学んだ。街並みはとても綺麗で歴史的な建造物や緑豊かな自然があり、心地よく散歩をすることができた。



夜はロブスターロールやシーフードが有名なレストランSaltie girlで美味しいご飯を堪能した。本当に全ての味付けが最高で店内の雰囲気も良くまた行きたいと思った。



そしてred soxの野球観戦に行った。初めての海外野球観戦だったのでとても楽しかった。みんなで名物の『sweet caroline』を合唱したことは忘れられない良い思い出だ。球場の一体感が増し、応援にも熱が入った。惜しくも敗戦したが貴重な経験ができてとても楽しかった。次は大谷翔平がいるドジャースの試合を見てみたい。



8.9/13.9/14 ～観光～

6日目と7日目は、各自行きたいところをピックアップし、観光やショッピングを楽しんだ。13日にはボストン美術館に学生だけで行った。館内はとても広く、各地域の様々な年代における美術品があり、それぞれ雰囲気や全く異なり興味深かった。ボストン美術館には日本の美術品が沢山貯蔵されており、日本のブースも広く、日本庭園もあった。



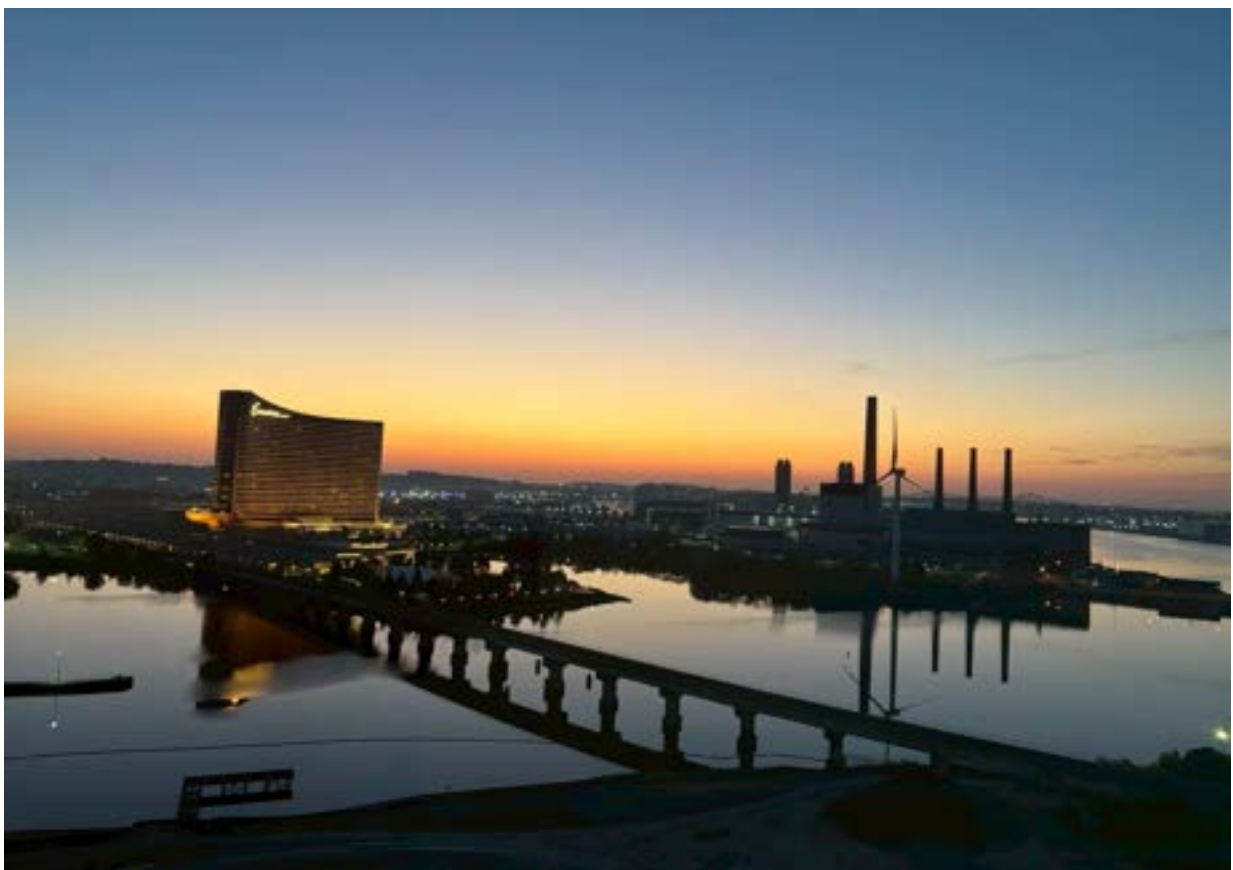
14日にはMIT(マサチューセッツ工科大学)を先生に案内していただいた。ハーバード大学やブランドアイス大学とはまた雰囲気の違い、理系大学ということもあり、研究室が多くあったり、ホワイトボードに数式が書いて残ってあったりなど新鮮だった。大学の近くにはLittle Free Libraryがあり、そこで興味を引かれた本を持って帰って来たりした。その他は各自、ニューベリーストリートや、クイーンシーマーケット、ボストン・パブリック・ライブラリー、宿付近のアウトレットなどで買い物や観光を楽しんだ。





9. 9月15日 帰国

10時にAirbnbを出発し、13時20分発の直行便に乗り帰国した。旅の疲れを考慮し、昼発の直行便を選択したことで、時間に余裕をもって帰国することができた。



10.終わりに

グローバル・アクティブ・ラーニングという授業を通して、私たちは数え切れないほど多くのことを学んだ。ブランダイス大学の学生との交流、ハーバード大学やボストン大学の先生方との対談、ボストンの街並みや歴史との出会い、そして異文化との遭遇。そのすべてが、私たちに新たな視点と深い学びを与えてくれた。

多様な人種や文化背景を持つ人々との交流を通じて、価値観や将来への展望、「自由」といった概念の捉え方の違いなど、数多くの違いに気づかされた。それらの違いを理解しようとする過程で、私たちは自分自身の考え方を見つめ直し、自分自身や日本について再認識すると共に世界を見る目を大きく広げることができた。また、現地の大学生と直接交流することで、学習意欲や向上心の高さに強い刺激を受けた。学生同士の対話だけでなく、名門大学の教授との議論を通じて、文化や国、人々の違いについて歴史的・社会的背景から考察する貴重な機会を得ることができた。これらの経験は、私たちの見聞を大いに広げるとともに、間違いなく人生の転換点の一つとなった。

海外や異文化交流に興味のある学生、さまざまな経験を積みたい学生、そして留学に踏み切れずにいる学生にも、ぜひこの素晴らしい授業を体験してほしいと強く思う。

そして、最後にこのような貴重な機会を与えてくださった武石先生、ヘッセ先生に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。今後とも何卒よろしくお願いいたします。